

個別事業(取組)評価				
事業No.	27	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	コーディネーション型生徒指導主事の養成プログラム		担当課	人権教育課
			当初予算額(千円)	1,170
			補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	1,160	

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状 (課題) とその要因	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各中学校において、生徒指導主事を中心とする組織的な取組、予防的観点での開発的・促進的な生徒指導の実践が十分になされていない。 ◆依然として、生徒の問題を、学級担任等一部の教職員が抱え込む傾向がある。 ◆特に中学校における生徒指導上の諸問題は、憂慮される状況が続いている。 <p>※H21年度本県公立中学校の状況 不登校:32.5人/1,000人 暴力行為:27.0件/1,000人</p>	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>最新の調査結果においても、ほぼ同様の状況であることが確認できた。</p> <p>※H22年度本県公立中学校の状況 不登校:34.2人/1,000人 暴力行為:29.3件/1,000人</p>
		<p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各学校において、生徒指導の定義や組織の中での生徒指導主事の役割が十分に理解されていない。 ◆個々の教職員が、生徒指導の理論を十分理解しないままに、これまでの経験や独自の手法で生徒指導を実践しているため、系統的・組織的な取組に至っていない。 ◆生徒指導上の諸問題が多様化、深刻化する中、依然として、学級担任等一部の教職員が抱え込んで対応しようとする傾向がある。 	<p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>生徒指導主事会におけるアンケート調査等により、要因を特定している。</p>
②	目標 (Outcome)	<ul style="list-style-type: none"> ◆各モデル校において、「生徒指導主事を中心とする組織的な生徒指導及び開発的・促進的な生徒指導」を推進し、以下の点について改善を図る。 <p>◇《質的目標》 ・生徒指導についての理解度及び組織的生徒指導実践力の向上</p> <p>◇《数的目標》 ・生徒指導上の諸問題の各項目を前年度より改善する。 ・学級満足群を増加させる。</p>	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>組織的な生徒指導及び開発的・促進的な生徒指導の実践を目指すうえで、平成23年度に達成すべき目標を設定した。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <p>◇生徒指導主事を中心に、日ごろの教職員の生徒指導の取組を検証するとともに生徒と向き合うときの留意点等を整理し、その中から、予防につながる具体的な生徒指導について職員会議に提案し、全教職員で実践した。 ※実践例:「防災教育」をテーマとする生徒・教職員一体となった取組を進めた。いじめ・暴力・暴言等に対する生徒の声を集め、全校生徒に返し、学級でのルールづくりにつなげた。</p> <p>◇モデル校における生徒指導上の諸問題は、一定の改善が見られたが、Q-Uアンケートにおける学級満足群が若干減少した。 ・不登校児童生徒数:41人(H22)→34人(H23) ・いじめ認知件数:11件(H22)→10件(H23) ・暴力行為発生件数:74件(H22)→66件(H23) ・H23の数値は、問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式)の速報値 ・Q-Uアンケートにおける「学級生活満足群」(H23)前期(4～5月頃実施):51.5%→後期(10～12月ころ実施):50.9%</p>
		<p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆管理職及び生徒指導主事からの聞き取り ◆問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式) ◆Q-Uアンケート 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国との契約の関係で事業の実施が遅れたが、指導主事が学校を訪問し、生徒指導主事等に助言を行う等を通じて、ほぼ計画通り実施できた。 ・第1回コーディネーション型生徒指導主事養成支援事業連絡協議会(6/29)モデル3校(各校管理職1人、生徒指導主事1人)及び市町村教育委員会担当者 延べ9人参加 ・第2回コーディネーション型生徒指導主事養成支援事業連絡協議会(1/31)モデル3校(各校管理職1人、生徒指導主事1人)及び市町村教育委員会担当者 延べ9人参加
③	実施内容 (Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> ◆県内3校の生徒指導主事を実践モデルに指定し、以下の取組を実践する。 ・生徒指導主事を中心に、各学校で培ってきた生徒指導の実践を理論化・体系化するとともに、これまでの取組について検証する。 ・問題対応、早期支援、未然防止の3段階に分類し、それぞれの段階で、見立て(アセスメント)、立案(プロモート)、調整(コーディネート)の3観点から効果的な取組を構築する。 ・生徒指導主事が自ら校内研修を企画・実施するなど、学校組織における生徒指導主事の役割を、教職員全体に理解させる。 ・生徒指導主事を中心に、生徒指導に関する情報を職員間で共有するとともに、指導方針・具体的な取組について共通理解を図り、組織的な生徒指導の実践につなげる。 	
		<p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆モデル校において、教職員に生徒指導の意義について周知することができたとともに、生徒指導主事を中心とする予防に視点を当てた組織的な生徒指導体制を構築することができた。 	<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆モデル校における、より機能的・組織的な生徒指導体制の構築及び実践につなげるため、生徒指導主事だけでなく、管理職や他の教職員に対しても助言を行う。 ◆モデル指定の最終年となることから、中学校生徒指導主事会等においてモデル校の実践発表を行い、県内各学校に成果等の普及を図る。
総合評価 と 今後の方向		<p>目標達成度 C 「No」を選択した項目 エ</p>	